

ラグビーワールドカップのレガシーを活用した スポーツ振興・地域活性化宣言

ラグビーワールドカップ2019大会での日本代表チームの活躍は、子どもたちに夢や希望を与え、私たち日本人の心を一つにした。

アジアで初開催となった今大会は、ラグビーという競技の魅力や素晴らしさ、世界トップレベルの凄さを実感させてくれた。

また、ワールドワイドな価値観や感動を、世界のラグビーファンと共有できたことは、将来、各分野でグローバルに活躍できる人材の育成にもつながるものである。

九州・山口地域は、官民一体となり、海外誘客に向けたプロモーションを行うとともに、キャンプ地誘致に積極的に取り組み、各地で地域住民との交流も行われた。また、国内外から多くの観戦客が訪れた九州での10試合の大会期間中には、九州・山口地域の特色ある37の祭りを一堂に集めた「祭りアイランド九州」を開催するなど、各県の魅力に触れてもらうことができた。

今後も、2019女子ハンドボール世界選手権大会（熊本）、東京2020オリンピック・パラリンピック競技大会、世界水泳選手権2021福岡大会などの国際スポーツ大会が各地で開催され、国内外から数多くの方が九州・山口地域を訪れることが見込まれる。

我々は、ラグビーワールドカップ2019日本大会を誘致し、成功させた経験やノウハウ、世界の人々との共感など、今大会のレガシーを活かし、スポーツの力で九州・山口地域をさらに元気にしていきたいと考える。

このため、20年の長きにわたり、世界の強豪校が参加し交流を深める「ワールドラグビース交流大会」が開催されてきた、ここ宗像の地において、以下の取組みを九州・山口地域が官民一体となって推進することを宣言する。

- 1 ラグビー人口の拡大、九州・山口地域とアジアの青少年が参加するラグビー交流大会の開催や、トップレベルのラグビー大会、国際スポーツ大会、合宿、国際会議等の誘致に取り組むとともに、観光振興の面でも、新たに欧米・大洋州からの誘客拡大を図るなどインバウンドの多角化を進める
- 2 スポーツと、健康、食、旅行などの様々な分野との融合により、スポーツの新たな価値を創造するとともに、VR観戦、スポーツセンシングなどIOTを活用した新たなスポーツ市場の創出に取り組む

令和元年11月6日

九州地域戦略会議 共同議長 広瀬 勝貞
共同議長 麻生 泰